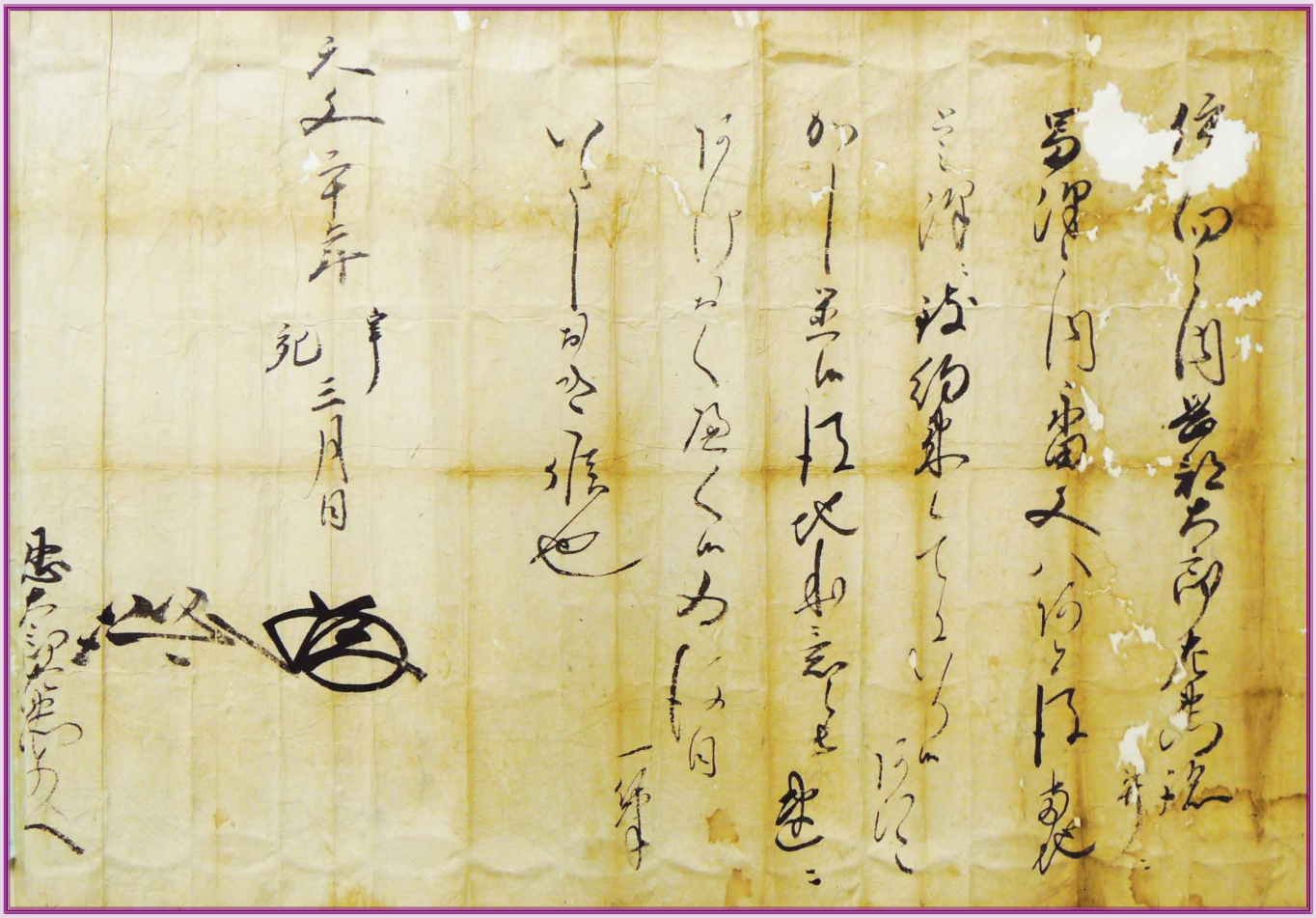
秋田県

公文書館だより

第32号

平成29年3月8日



忍家文書（天文20年）

平成二十八年度寄贈史料

「忍家文書」と「八代家文書」

今年度、「忍家文書」二点と「八代家文書」百四点の寄贈がありました。

「忍家文書」は、佐竹家中で江戸期に十二所給人であった忍家伝来文書です。

巻頭の写真は、佐竹氏入封以前の文書です。釈文は、次の通りです。

□向之内岡部太郎左衛門跡・富沢之内小田文八あと、彼両地とミ沢ニ致約束候、てにいり候あひた、かし置候、彼地本意候者、速ニあけおくへく候、為後日一筆いたしおき候也、

天文二十年辛亥三月日　（花押）

（花押）

忍太郎左衛門とのへ

右の文書の写が、「秋田藩家蔵文書」一五茂木筑後組下十二所給人家蔵文書（A二八〇―六九―一五）にあります。しかしその原本の所在は、わかりませんでした。このたび原本が発見されたのです。

家蔵文書に写した秋田藩文書所は日付の真下の花押の人物を特定できませんでしたが、『白河市史』第五巻資料編2古代・中世の編者のように、白河結城氏の晴綱（一五二〇？～一五七三）の花押です（『白河市史』は、原本を忠実に写そうとした家蔵文書を捨てて、当館で樋口本と命名している家蔵文書の解読本を採用しています）。晴綱が花押をすえる、時期としては問題がありません。

その左にある花押ですが、文書所では白河結城氏の庶流小峰家出身で、晴綱亡き後、白河結城氏を乗っ取る義親（一五四一～一六二六）としております。確かに義親の花押としてよいようです。

しかし義親は、わずか十一才で、惣領家と並ぶ立場にあったでしょうか。また写真の文書以後永禄頃まで、義親の文書が一点もないのも引っかかります。さらに他の白河結城氏発給文書と比較しますと、義親の花押と充書の「忍太郎左衛門」の間が狭いのが気になります。

では偽文書でしょうか。墨色等からみるに、晴綱と義親の花押は同筆ではないようですし、本文も筆が違うように見受けられます。十六世紀の結城白河氏は、惣領家と庶流小峰家との間が微妙だったようですので、ほりさげてみなければならないようです。

「忍家文書」のもう一点は、天正十七年（一五八九）十月吉日付の義親証状の写です。こちらも家蔵文書に写があります。

さて「八代家文書」の旧蔵者故八代伯郎氏は、鉄道関連の膨大なコレクションを所蔵されており、その一部が平成二十五年度末から翌年度はじめにかけて当館二階特別展示室で開催されました秋田県立博物館主催の「春の小さな鉄道展」で公開されました。文書は、伯郎氏の御遺族の方より当館に寄贈いただきました。

八代家は佐竹家中の久保田居住の、いわゆる旗本で、秋田藩用人・本方奉行・副役・目付等をつとめた者がおります。中級クラスの武士です。幕末期の史料が多くを占めますが、あわただしい御時世を反映してか、この時の八代家当主は北方警備に関わったかと思えば、京都に上ったりしたようです。なお多数の鉄道コレクションは、秋田県立博物館に寄贈されたとのことです。

貴重な史料を寄贈いただきまして、ありがとうございます。

刊行物紹介

「岡本元朝日記」第三巻

第三巻は、元禄十六年（一七〇三）三月から同十七年（一七〇四）二月までを収録しています。三月十三日に宝永に改元されますので、元禄年号での最後の日記といえます。

記主岡本元朝は秋田藩家老ですから、第三巻は秋田藩家老時代パートⅡといえます。この巻での大きな出来事は、藩主佐竹義処が六月二十三日に横手で没したことです。義処の長子義苗は父に先立って元禄十二年（一六九九）に亡くなり、その弟義珍は相馬中村藩主の養子となり、その名を叙胤と改めました（その末裔が最後の秋田藩主佐竹義堯）ので、その弟でわずか十才の義格が家督となります。

岡本元朝日記第三巻は、既刊同様に消費税抜き四千円で頒布しております。ご購入希望の方は、左記までお申し込みください。

〒〇一一―〇九〇一
秋田市寺内字三千刈一一〇―一
秋田活版印刷株式会社
電話〇一八（八八八）三五〇〇

平成二十八年度 公文書館講座

講座は、当館所蔵資料に関する知識や歴史への知識・興味を深めてもらうとともに、歴史資料の保存と活用の重要性や当館の活動について理解を深めていただくことを目的としています。今年度も七月に「古文書解読講座」を八回、七月と十月に「アーカイブズ講座」を開催しました。

今年度の「古文書解読講座」は、初めて古文書を学ぶ方を対象にしたⅠ期四回と、古文書をある程度読める方を対象にしたⅡ期四回の、合計八回の講座で実施しました。Ⅰ期では前年までの講座アンケート結果を反映し、くずし字の特徴や頻出する用語や表現、文章のパターンなどについて学んでいただきました。ゆっくりとした進行、テキストの文量はやや少なめでしたが、受講者の方からはおおむね御理解いただけたものと思います。

Ⅱ期は秋田藩家蔵文書や、藩政期の日記・日録・先例書をテキストに中・近世の秋田の歴史にも触れる内容で開催しました。例年御参加いただいているベテランの受講者の方が多く、熱心に質問する姿が見られ、充実した講座となりました。

「アーカイブズ講座」は、秋田県生涯学習センターとの共催事業（「あきたスマートカレッジ」の連携講座）として、同センターを会場に開催しました。古文書解読講座Ⅱ期に関連した秋田氏の「伝承と史実のあいだに」実像を探る講座と、今年度の企画展「公文書で見る秋田の石油開発」の解説を中心とした講座をそれぞれ一回ずつ実施しました。講座終了後に閲覧室や展示室を訪れ、資料の閲覧利用をされた受講生の方も見られました。講座をきっかけにして、御自身が資料に興味をもち、追究される姿に、今後の公文書館の利用を促進する効果が生まれたと思います。

参加者数は「古文書解読講座」Ⅰ期に延べ百一名、Ⅱ期に延べ八十三名、「アーカイブズ講座」に合わせて六十五名と、合計二百四十九名の方々に御参加いただきました。今年度は、新規利用の方々に門戸を拡大するために、試験的に古文書解読講座のⅠ・Ⅱ期を重複受講できないルールで申込みを受け付けました。利用者皆様の御理解をいただき、Ⅰ期に初めて御利用の方々が増えて、一定の成果が見られました。来年度も公文書館講座をよろしくお願いいたします。

平成28年度　公文書館講座一覧

●古文書解読講座

・講座Ⅰ
- 7/ 1（金）①様々な歴史資料
- 〃　②古文書で扱う文字
- 7/ 8（金）③系図・由緒書を読む
- 〃　④山林盛衰之大凡考を読む

・講座Ⅱ
- 7/15（金）①秋田藩家蔵文書を読む
- 〃　②御用記先例書を読む
- 7/22（金）③土屋知虎日記を読む
- 〃　④箱館官暇日録を読む

●アーカイブズ講座

- 7/29（金）①伝承と史実のあいだに
- 10/28（金）②公文書で見る秋田の石油開発

平成二十八年度　企画展報告

「公文書で見る秋田の石油開発
～『石油王国秋田』誕生ものがたり～」

前期　八月二十七日～九月二十七日　後期　十月二十九日～十一月二十八日

秋田はかつて、「石油王国」とよばれていたことをご存知でしょうか。県内の油田は過去のものと思われる方も多いと思いますが、現在でも操業中の油田やガス田がまだまだあります。掘削調査は平成二十八年度初めにも秋田市で実施され、シェールオイルのわが国初の商業生産も由利本荘市で始まっています。

本年度の企画展は、「公文書で見る秋田の石油開発～『石油王国秋田』誕生ものがたり～」と題し、かつて「石油王国」とよばれた秋田の石油開発の歴史を所蔵資料でたどりました。

展示は、石油開発前史（明治時代以前）、石油開発の先駆者たち（明治時代初め）、近代的な油田開発のあけぼの（明治時代中頃）、油田開発の本格化（明治時代末～大正時代）、戦時体制下の石油（昭和時代初め～終戦）、「石油王国秋田」の誕生（終戦～高度経済成長期前半）、新たな石油資源開発と産業の育成（昭和時代後半）、「新エネルギー立県秋田」の創造（現在）、石油の利用（明治時代～昭和時代初め）の９つのコーナーを設け、時代ごとに石油と秋田とのかかわりを所蔵資料で紹介しました。また、「新エネルギー立県秋田」の創造（現在）のコーナーでは、県資源エネルギー産業課と協同し、県が現在、取り組んでいるエネルギー政策を紹介しました。

11月３日、ギャラリートークを実施

展示資料より　昭和30年頃の八橋油田

今回の企画展は、かつて「石油王国」とよばれ、多くの方が石油産業に携わってきた関係からか、石油関係の仕事に従事されていた方の来場も目立ちました。展示されている写真や地図の前で仕事の思い出を御家族に話されている方や、図面を見ながら技術的な話題で盛り上がっている小グループの方を何度か見かけました。また、秋田の石油産業における先覚者として紹介した千蒲善五郎や黒沢利八についての御質問もあり、埋もれかけていた先人たちの業績や、資料を保存し伝えていくことの意義を多少なりともお伝えできたのではと思っています。

企画展では、ひと目で理解しやすいものを展示の中心にしています。しかし公文書館所蔵資料は大部分が文書の資料です。最初から最後まで読んで、内容がわかるものがほとんどです。展示した資料の前後の部分や、周辺の資料を読んでみると、より奥深く、時代の姿や先人の業績を知ることができます。

公文書館所蔵資料はどなたでも閲覧することができます。興味をもたれたものがありましたら、気軽に御来館ください。

なお、企画展のパンフレットは閲覧室に用意している他、当館のウェブサイトでダウンロードできますので御活用ください。

企画展の展示資料より

明治四十三年　産業功績者調（930103－07473）

今回、企画展で展示した所蔵資料の中に、明治四十三年の「産業功績者調」があります。秋田における石油産業の先覚者として取り上げた千蒲善五郎、黒沢利八の記録は、ここの記載を紹介しました。

この簿冊は、県が県内の郡市長に、表彰対象者の推薦を依頼し、その回答である調書が綴られたものです。巻頭には、七十二名の氏名と二団体のあわせて七十三組（二名連名が一組）が記載された索引があります。また、後から提出されたためか、索引に記載されていない三名分が巻末に綴られ、合計七十六組の調書と、関係する事務文書が綴られています。

調書の対象は、大部分が開拓、開墾や、農事、養蚕、山林、畜産など農林業関係者です。中には、この時にはすでに亡くなっている二田是雄や渡部斧松の名前も見られます。また、鉱工業関係では染色や織物などの繊維産業が多く、醸造業や今回の企画展で取り上げた石油産業も含まれています。醸造の浅利佐助や、今回紹介した黒沢利八、千蒲善五郎の孫の信一郎の名前も見つけられます。

内容を見ると、当時の人々や県が、何を大切と考えていたのかがよくわかります。例えば、調書の大部分を農林業関係者が占めているのは、これを重要と考えていたからと思われます。また、現在では見られなくなった養蚕や軍馬の生産についての記載が多いことから、当時重視されていたものを推察することができます。同時代の人の目で記録され、その考えが反映されている貴重な記録といえます。

明治期の行政文書ですので、文学作品のように洗練された文章ではありません。しかし調書の大部分は、旧仮名遣いながら楷書とひらがなで書かれています。時代の変化とともに忘れられようとしている地域の偉人の伝記や産業の記録として読んでみても面白いものと思います。

なお、この資料の周辺には、他にも産業功労者に対する調書や表彰の原案などの簿冊があり、石川理紀之助や井坂直幹、和井内貞行の調書も見られます。あわせて目を通してみてはいかがでしょうか。

公文書の引渡し・公開状況

県の各部所で作成され県庁舎地下書庫などで保存されている公文書は、保存期間経過後に当館へ毎年引き渡されます。

前年度知事部局から引渡しを受けた件数は約三千件です。

これらは、毎年当館の基準により評価・選別を行い、後世に継承すべき県政資料として利用者への公開等に備え、当館の書庫に保存します。

一方、当館に現在保存されているもののうち、作成後三十年経過した公文書については、毎年利用者への公開に向けて個人のプライバシーを侵害する情報があるかどうかを主眼に点検し、作成原課との協議を経て、目録作成・データベース登録など公開に向けた作業を行っています。

平成二十八年度、新たに公開対象とした公文書の内訳は下表のように、合計千八十二件です。どなたでもカウンターへ閲覧請求の上、原本を（非公開情報は被覆の上）御覧になれますのでお気軽に御利用ください。

引渡し・保存状況

	引渡件数	保存件数	保存率
知事部局（平成27年度分）	3,368件（5,176冊）	309件（528冊）	9.2%
各行政委員会（平成26年度分）	13件（53冊）	0件（0冊）	0.0%

平成28年新規公開状況

新規公開の候補とした公文書		2,053件
内訳	公開と決定	1,082件
	非公開と決定	971件
	理由：非公開情報が多数含まれている（※1）	887件
	理由：作成原課で現在も利用している（※2）	84件

※1 非公開とすべき年数が満了した時に公開となる
※2 情報公開条例による公開請求対象となる

県政映画上映会
～秋田昭和の時代　映像アーカイブ～

今年度も八月二十七日（土）と十一月三日（木・祝）に、当館三階多目的ホールにて、「県政映画上映会～秋田昭和の時代 映像アーカイブ～」を開催しました。

八月の上映会では、オリンピック開催年にちなみ、メルボルン大会で金メダルを獲得した小野喬選手はじめ体操選手団の公開演技も収録した「小野選手晴れの郷土入り」、昭和三十九年に開催された東京オリンピックの県内リレーの様子を紹介する「聖火羽後路を行く」をはじめ、ボンネットバスのレントゲンカーによる巡回検診など県の施策や、ふるさとの四季を紹介する五本の作品を上映しました。

十一月は、「第一回文化功労者表彰」や「文化の殿堂完成（県民会館・県立秋田図書館）」、「本観測ロケット飛ぶ」など五本を上映しました。

また、今年度の工夫として、両回とも、企画展「公文書で見る秋田の石油開発～『石油王国秋田』誕生ものがたり～」に関連するニュース映像を交えて上映しました。

お客様の感想をいくつか御紹介します。「東京オリンピックの聖火リレーに走者として参加したので、とても懐かしかった」（六十代、男性）、「検診車に乗って、国亡病といわれた結核と戦ったことを思い出した」（八十代、男性）、「短い時間で秋田の歴史が分かり、白黒映像が新鮮だった」（六十代、男性）、「油田開発の映像は昔の様子を知る良い資料。地元の子ども達にも見せてあげたい」（五十代、女性）、「小船に乗って白竜号を見学に行ったことを思い出した」（八十代、男性）、「企画展と上映会がリンクしていてとても良かった。」（四十代、女性）。

また、「記憶が風化しないよう災害などシビアな映像も取上げてほしい」（七十代、女性）、「より多くの参加があればいい」（六十代、男性）との御意見もいただきました。

これらを参考に平成二十九年度も二回の上映会の開催を予定しています。

当館のビデオルームでは、どなたでも、「県政映画」を閲覧することができます。皆様の御来館を心からお待ちしています。

平成28年度　第1回上映会ポスター

「海底油田掘削進む」（白竜号）

あきた県庁出前講座報告

秋田県では、県内のグループが主催する学習会に職員を派遣し、県の事業の紹介を行う「あきた県庁出前講座」を実施しています。公文書館でも、平成二十六年度から、「公文書館所蔵資料で秋田の魅力を再発見」をテーマに、出前講座を実施しています。

出前講座では、所蔵資料や主催行事の内容に触れながら、公文書館の業務の紹介を行っています。お申し込みのグループの状況により、講座の時間や難易度は調整できますので、お気軽に御相談ください。

詳細は、秋田県のウェブサイト掲載の実施要項を御覧になるか、公文書館にお問い合わせください。

過去の実施状況は次のとおりです。

平成二十六年度　四件　九十二人
平成二十七年度　七件　二百十二人
平成二十八年度　二件二百三十四人
（十二月末日現在）

平成二十八年度

市町村公文書・歴史資料保存利用推進会議

市町村公文書・歴史資料保存利用推進会議は、県内市町村の各担当者の情報交換を目的に毎年開催しており、今年度は十一月十八日に開催しました。

基調講演には、学習院大学文学部教授、内閣府公文書管理委員会委員の保坂裕興先生をお迎えして「存在と時間のアーカイブズ―公文書管理法への視座―」というテーマでお話いただきました。

約三百年前の村方騒動当時の村の文書が保存されていたことがその後の年貢行政や公租負担者の権利にいかに役に立ったかという題材を基に、現代に飛んで公文書管理や時間時代を越えて文書が残るアーカイブズの意味などを解説するという大変興味深い講演でした。詳細は当館の「研究紀要」第二十三号を御覧ください。

会議の後半では、大仙市から来年度開館予定の公文書館・大仙市アーカイブズの準備状況について事例報告がありました。市町村では東北初となる事例だけに他の市町村からも質問が出ていました。また、秋田市ほかから庁舎移転に伴う書庫の扱いなどの事例紹介があり、それについて意見交換がなされました。

平成の大合併後十年を迎えて、行政の様々な面で大きな見直し・改革が図られる中、公文書の管理保存と利活用もその中のひとつのテーマです。大仙市のように公文書館を目指す市町村もあれば、建物を伴わない公文書館機能のみ、あるいはその他の取り組みを試みている市町村もあります。当館としても各市町村や関係方面との情報の共有化に努めるとともに、このような動きに助言・支援を行ってまいります。

市町村公文書・歴史資料保存利用推進会議のほかに、当館では平成二十六年度から県内市町村の訪問事業を行いました。これは秋田県歴史資料保存調査事業の一環で、市町村公文書管理担当者及び歴史資料・文化財担当者と情報交換を行うと共に現場の資料保存状況などを確認し、必要な助言や資料保存の情報収集などを行ってきたものです。平成二十八年度までに全二十五市町村を一巡しました。この成果を踏まえ、当館では、県内市町村公文書館機能、公文書・歴史資料管理機能のセンターとしての役割を強化してまいります。

所蔵資料の出版・掲載・放映等の利用について

当館所蔵の資料は、許可を受けていただければ、複製物を作成したり、写真や翻刻の出版物への掲載、放映、映像資料の上映などを行うことができます。

許可申請は平成二十七年度に六十一件、平成二十八年度は十二月末までに三十件あり、別表のように資料を御利用いただいています。

申請手続きの詳細は、当館公式ウェブサイト内「閲覧室と資料のご利用方法」に記載しております。

平成二十七年度	
配布物・報告書等への掲載	30
放映・放送等での使用	13
出版物への掲載	9
映像資料の上映	5
展示会・企画展等での展示	4
合計件数	61

平成二十八年度（十二月末現在）	
配布物・報告書等への掲載	14
放映・放送等での使用	7
出版物への掲載	6
展示会・企画展等での展示	3
合計件数	30

平成二十九年度に公文書館の仲間が増えます

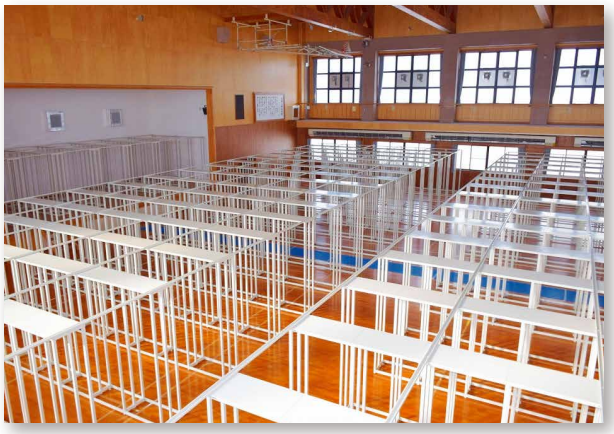
大仙市アーカイブズが開館します

市町村段階では東北六県初となる公文書館「大仙市アーカイブズ」が平成二十九年度開館の運びとなり、大仙市強首の旧双葉小学校校舎が改修されて公文書館に生まれ変わります。同市及び合併前旧市町村公文書、同市内の地域資料（いわゆる古文書）等同市の収集保有する歴史資料がここに一元的に管理保管され、一般の利用に供される見込みです。

当館としても秋田県内で初めての公文書館仲間の誕生にできうる限りの支援を行っていくつもりです。当面は、大仙市アーカイブズで当館所蔵資料の展示を行うなど開館記念事業に協力する予定です。

今後は、両館、さらには県内他市町村も含めて、所蔵資料の情報共有を図るなど、当館が県内の公文書館等全体のセンターとしての役割を果たすよう機能強化してまいります。

改修工事中の施設全景



工事中の大書庫

平成二十九年度 行事予定

◆企画展

前期　8月26日～9月25日
後期　10月27日～11月29日

◆公文書館講座

●古文書解読講座
7月7日・7月14日・7月21日・7月28日

◆県政映画上映会

第一回　8月29日（火）（県の記念日）
第二回　11月3日（金・祝）（文化の日）

◆古文書相談日

4月25日・5月9日・5月23日・6月13日・6月27日・8月8日・9月12日・9月26日・10月10日・11月14日・11月28日・12月26日・1月23日・2月13日・2月27日・3月13日

公文書館 利用案内

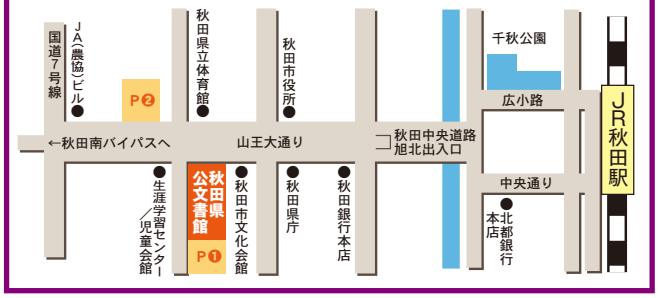
◆開館時間

平　日　9時～19時
土日祝日　10時～18時
（資料利用申請は17時30分まで）

◆休館日（平成29年度予定）

特別整理期間
5月30日～6月7日
12月6日～12月13日
12月28日～1月3日
年末年始
毎月第一（または第二）水曜日
4月5日・5月10日・7月5日・8月2日・9月6日・10月4日・11月8日・1月10日・2月7日・3月7日

周辺案内図



編集発行：秋田県公文書館
〒010-0952　秋田市山王新町14-31　電話018(866)8301
URL　http://www.pref.akita.lg.jp/pages/genre/kobunsyo/

この印刷物は二、〇〇〇部作成し、その経費は一部当り二四・八四円です。

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。